

議題2（委員会決裁事項（規則第3条第1号））

大阪府立学校条例及び大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画に基づく
令和4年度実施対象校（案）について

標記について、別紙のとおり方針を示し周知を行うことを決定する。その上で、様々な
意見を踏まえ、令和4年11月の教育委員会会議において最終決定する。

令和4年8月29日

大阪府教育委員会

1 令和4年度の方針

令和4年度は、特色ある教育活動を他校に継承・発展させる機能統合による学校の再編整備及び多様な教育実践校への改編に着手する。

2 機能統合により再編整備する学校

対象校 (所在地)	機能統合先となる学校 (所在地)	対象校 募集停止時期	機能統合 開始時期
ひらの 平野高校 (大阪市平野区)	まつばら 松原高校 (松原市)	令和6年度 入学者募集時	令和6年度から
かの かわち野高校 (東大阪市)	ひらおかしょうふう 枚岡樟風高校 (東大阪市)	令和6年度 入学者募集時	令和6年度から
みはら 美原高校 (堺市美原区)	おおつか 大塚高校 (松原市)	令和6年度 入学者募集時	令和6年度から

3 多様な教育実践校への改編

対象校 (所在地)	改編時期
にしなり 西成高校 (大阪市西成区)	令和6年度から
みさき 岬高校 (泉南郡岬町)	令和6年度から

4 対象校の選定理由

機能統合による再編整備

① 平野高校と松原高校

- ・ **平野高校**は、昭和 55 年に普通科として開校し、平成 13 年度には「環境コース」と「人間コース」を置く普通科専門コース設置校となった。現在は両コースともさらにカリキュラムの改編を重ね、「環境科学コース」と「人間福祉コース」となっている。
- ・ 同校の「環境科学コース」では、校内のビオトープを活用した農作業や実験・実習を通じて、科学と人間生活の関わりを学ぶ取組みを行っており、近隣の小学生との交流も行っている。
また、「人間福祉コース」では、福祉施設・幼稚園・小学校との交流を取り入れた授業や、「介護職員初任者研修」資格取得講習の実施など、福祉系の就職や進学の支援を行っている。
しかし、学校や関係者の尽力にもかかわらず、中学校卒業生数が減少する中、同校では、平成 31 年度以降 4 年連続して入学を志願する者が定員に満たない状況が続いており、小規模化が進んでいる。また、同校の在籍生徒の主たる居住地の行政区（大阪市平野区、松原市、八尾市、羽曳野市、藤井寺市）における今後の中学校卒業生数が減少傾向にあることから、同校を志願する者の数の改善が見込めない状況となっている。
- ・ 平野高校から西に約 800mの所に立地する**松原高校**は、昭和 49 年に普通科として開校し、平成 8 年度に総合学科へ改編した。同校は「国際理解ヒューマンネットワーク」「地域福祉コミュニティ」「創造表現クリエイティブ」「スポーツ」「環境科学エコロジーサイエンス」の 5 つの系列と進路別講座群を置き、生徒の多様な進路の実現を図っている。
また、平成 13 年度から 5 年間の「知的障がいのある生徒の高等学校受入れに係る調査研究」を経て、平成 18 年度から「知的障がい生徒自立支援コース」を設置するとともに、平成 30 年度から「通級指導教室」を設置し、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進している。
- ・ 平野高校が「環境科学コース」において培ってきた、科学と人間生活の関わりを学ぶノウハウや、「人間福祉コース」で行ってきた、人との関わりを学んで地域とつながり福祉に携わる人材を育成するノウハウを、松原高校の「環境科学系列」や「地域福祉系列」の科目等の取組みに継承・発展させ、教育内容の充実を図る。
あわせて、平野高校で行ってきた、地域交流の中で生徒が主体的に活動し、他者と認め合う力を育成する「地域とともに生徒を育てる」取組みを、松原高校の地域連携活動に継承し、さらなる充実につなげていく。
- ・ 以上のように、平野高校の特色ある取組みを松原高校に継承・発展させる機能統合を実施する。

《参考》

1. 入学者数の状況

＜平野高校＞

学科	選抜結果						創立年	生徒数 (R04)	
		H30	H31	R2	R3	R4			
普通科	一般選抜	募集定員 (人)	240	240	240	240	160	S55	342
		入学者数 (人)	240	220	149	121	109		
	二次選抜	募集定員 (人)	-	20	91	119	51		
		入学者数 (人)	-	8	13	1	2		
	募集定員に満たない数 (人)		-	12	78	118	49		
	一般選抜倍率		1.00	0.93	0.62	0.51	0.69		

＜松原高校＞

学科	選抜結果						創立年	生徒数 (R04)	
		H30	H31	R2	R3	R4			
総合学科	一般選抜	募集定員 (人)	280	240	240	240	240	S49	715
		入学者数 (人)	271	240	240	240	242		
	二次選抜	募集定員 (人)	9	-	-	-	-		
		入学者数 (人)	7	-	-	-	-		
	募集定員に満たない数 (人)		2	-	-	-	-		
	一般選抜倍率		0.97	1.10	1.01	1.01	1.04		

2. 全入学者に占める5つの行政区（大阪市平野区、松原市、八尾市、羽曳野市、藤井寺）から両校に入学した生徒の割合（令和4年度）

行政区	平野高校	松原高校
大阪市平野区 松原市 八尾市 羽曳野市 藤井寺市	80.2%	68.2%

3. 今後の中学校卒業生数の見込み

《大阪市平野区、松原市、八尾市、羽曳野市、藤井寺市の合計》

	R4.3	R5.3	R6.3	R7.3	R8.3	R9.3	R10.3	R11.3	R12.3
卒業生数 (人)	5,730	5,770	5,820	5,480	5,390	5,420	5,220	5,130	4,830

※ 学校基本調査（令和3年5月1日現在）による府内公立小・中学校在籍児童・生徒数から推計したもの。

② かわち野高校と枚岡樟風高校

- **かわち野高校**は、盾津高校と加納高校を統合整備し、平成 16 年に普通科総合選択制の学校として開校した。その後、平成 29 年度に「スポーツサイエンス専門コース」と「情報技術専門コース」の 2 つの専門コースを置く普通科専門コース設置校となった。
- 同校の「スポーツサイエンス専門コース」は、さまざまなスポーツや実習を通して協調性やチームワークの育成、コミュニケーションスキルの向上をめざし、社会でリーダーとして活躍できる人材を育成している。

また、「情報技術専門コース」は、コンピュータ関係の実践的な授業の中で、さまざまな資格取得や ICT を用いたプレゼンテーションなどビジネススキルの習得をめざし、社会で活躍する人材の育成に取り組んでいる。さらに、学校全体で基礎力育成重視の授業実践や多様な進路実現のための社会人基礎力の育成に向けた取組みを行っている。
- 同校から南東に約 3.1 km の所に立地する**枚岡樟風高校**は、食品産業高校と玉川高校を統合整備し、平成 13 年に総合学科として開校した。総合学科高校である特色を活かし、魅力ある授業の充実と生徒の進路実現への支援により、生徒の学ぶ力と自信を育てている。

近年では、ICT 環境設備等施設の充実・改善とともに学校組織を挙げた「わかる授業」づくりを積極的に実践している。令和 5 年度からは現在 7 つある系列を 5 つに改編し、生徒のニーズに対応した教育内容の充実を図る予定である。また、平成 18 年度からたまがわ高等支援学校の共生推進教室を設置し、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進している。
- しかし、学校や関係者の尽力にもかかわらず、中学校卒業生数が減少する中、かわち野高校では、平成 31 年度以降 4 年連続して入学を志願する者が定員に満たない状況が続いており、小規模化が進んでいる。また、枚岡樟風高校においても、平成 30 年度から令和 2 年度までの 3 年連続と令和 4 年度に入学を志願する者が定員に満たない状況である。

加えて、両校の在籍生徒の主たる居住地の行政区（東大阪市、大東市、八尾市）における今後の中学校卒業生数が減少傾向にあることから、入学を志願する者の数の改善が見込めない状況となっている。
- そこで、かわち野高校の「スポーツサイエンス専門コース」「情報技術専門コース」で培ってきた、授業や実習を通じて社会で活躍する人材を育成するノウハウを、枚岡樟風高校の「スポーツ健康科学系列」や新たに設置される「キャリアクリエイト系列」等に継承・発展させ、魅力ある授業の充実と生徒の進路実現支援の強化により、教育内容の充実を図る。
- 以上のように、かわち野高校の特色ある取組みを枚岡樟風高校に継承・発展させる機能統合を実施する。

《参考》

1. 入学者数の状況

＜かわち野高校＞

学科	選抜結果						創立年	生徒数 (R04)	
		H30	H31	R2	R3	R4			
普通科	一般選抜	募集定員 (人)	240	240	240	240	160	H16	431
		入学者数 (人)	240	221	219	147	111		
	二次選抜	募集定員 (人)	-	19	21	93	49		
		入学者数 (人)	-	2	3	2	1		
	募集定員に満たない数 (人)	-	17	18	91	48			
	一般選抜倍率	1.01	0.92	0.91	0.62	0.69			

＜枚岡樟風高校＞

学科	選抜結果						創立年	生徒数 (R04)	
		H30	H31	R2	R3	R4			
総合学科	一般選抜	募集定員 (人)	240	240	240	240	240	H13	606
		入学者数 (人)	229	211	225	240	186		
	二次選抜	募集定員 (人)	11	29	15	-	54		
		入学者数 (人)	6	2	4	-	2		
	募集定員に満たない数 (人)	5	27	11	-	52			
	一般選抜倍率	0.95	0.88	0.94	1.05	0.78			

2. 全入学者に占める3つの行政区（東大阪市・大東市・八尾市）から両校に入学した生徒の割合（令和4年度）

行政区	かわち野高校	枚岡樟風高校
東大阪市 大東市 八尾市	93.8%	93.1%

3. 今後の中学校卒業生数の見込み

《東大阪市・大東市・八尾市の総数》

	R4.3	R5.3	R6.3	R7.3	R8.3	R9.3	R10.3	R11.3	R12.3
卒業生数 (人)	6,630	6,700	6,390	6,250	6,170	6,000	5,930	5,680	5,480

※ 学校基本調査（令和3年5月1日現在）による府内公立小・中学校在籍児童・生徒数から推計したもの。

③ 美原高校と大塚高校

- ・ **美原高校**は、昭和 51 年に普通科として開校し、平成 22 年度には「体育専門コース」を置く普通科専門コース設置校となった。

・ 同校の「体育専門コース」はスポーツを通じて楽しく生き生きと学ぶことに力を注ぐとともに、生徒を主体とした野外活動も実施している。

また、生徒一人ひとりへの支援体制を強化し、細やかな支援を組織的に行いながら、基礎学力の定着や進路実現に向けて自己表現力の伸長を図る取組みをすすめている。地域との交流も積極的に取り組み、生徒の自主的な活動も推進している。

しかし、学校や関係者の尽力にもかかわらず、中学校卒業生数が減少する中、同校では平成 31 年度以降 4 年連続して入学を志願する者が定員に満たない状況が続いており、小規模化が進んでいる。また、同校の在籍生徒の主たる居住地の行政区（堺市、大阪狭山市、富田林市、松原市、羽曳野市、南河内郡、河内長野市、藤井寺市）における今後の中学校卒業生数も減少傾向にあることから、同校を志願する者の数の改善が見込めない状況となっている。

- ・ 美原高校から北へ 3.7 km の地点に立地する**大塚高校**は、昭和 58 年に普通科として開校した。平成 4 年度に体育科を設置し、体育・スポーツの拠点校として地域交流、スポーツの振興発展に取り組むとともに、普通科では、多様な生徒の幅広い教育ニーズに応え、地域に根ざした学校をめざしている。

また、生徒の豊かな心と社会性の育成に力を入れ、生徒の自主自律を重んじる生活指導を実践するとともに、各教室に ICT 機器を設置して積極的に活用するなど授業力向上に取り組んでいる。

- ・ 美原高校が「体育専門コース」で育んできた、生涯にわたって積極的にスポーツに関わる地域の指導者となりうる人材育成の取組みを、大塚高校の普通科における生徒の多様な教育ニーズに応じた取組みに継承・発展させる。

あわせて、美原高校で実践している基礎学力の定着を図る取組みを大塚高校に継承・発展させ、教育内容の充実を図る。

- ・ 以上のように、美原高校の特色ある取組みを大塚高校に継承・発展させる機能統合を実施する。

《参考》

1. 入学者数の状況

＜美原高校＞

学科等	選抜結果						創立年	生徒数 (R04)	
		H30	H31	R2	R3	R4			
普通科	一般選抜	募集定員 (人)	240	240	240	240	160	S51	376
		入学者数 (人)	240	218	204	150	80		
	二次選抜	募集定員 (人)	-	22	36	90	80		
		入学者数 (人)	-	7	9	3	1		
	募集定員に満たない数 (人)	-	15	27	87	79			
一般選抜倍率	1.05	0.91	0.85	0.63	0.50				

＜大塚高校＞

学科等	選抜結果						創立年	生徒数 (R04)	
		H30	H31	R2	R3	R4			
体育科	特別選抜	募集定員 (人)	80	80	80	80	80	H4	231
		入学者数 (人)	80	80	80	80	81		
	特別選抜倍率	2.08	1.74	2.00	1.23	1.38			
普通科	一般選抜	募集定員 (人)	200	160	160	160	160	S58	369
		入学者数 (人)	200	160	135	99	138		
	二次選抜	募集定員 (人)	-	-	25	61	22		
		入学者数 (人)	-	-	5	6	6		
	募集定員に満たない数 (人)	-	-	20	55	16			
一般選抜倍率	1.01	1.00	0.84	0.62	0.86				

2. 全入学者に占める8つの行政区（堺市、大阪狭山市、富田林市、松原市、羽曳野市、南河内郡、河内長野市、藤井寺市）から両校に入学した生徒の割合（令和4年度）

行政区	美原高校	大塚高校（普通科）
堺市 大阪狭山市 富田林市 松原市 羽曳野市 南河内郡 河内長野市 藤井寺市	96.2%	75.7%

3. 今後の中学校卒業生数の見込み

《堺市、大阪狭山市、富田林市、松原市、羽曳野市、南河内郡、河内長野市、藤井寺市の合計》

	R4.3	R5.3	R6.3	R7.3	R8.3	R9.3	R10.3	R11.3	R12.3
卒業生数 (人)	11,750	11,510	11,630	11,320	10,990	10,750	10,510	10,090	10,160

※ 学校基本調査（令和3年5月1日現在）による府内公立小・中学校在籍児童・生徒数から推計したもの。

多様な教育実践校への改編

- ・ **西成高校**は、エンパワメントスクールとして、社会で役立つ力を身に付け、生徒一人ひとりの自己実現を支援することに加え、知的障がい生徒自立支援コースを設置し、障がい等配慮を要する生徒等に、クラスでの学びを基本とし、教員の付添い支援や小集団・個別の授業形態を組み合わせた教科指導を行っている。これらの特色ある取組みを継承・発展させるため、「ともに学び、ともに育つ」教育について、より具体的に実践する多様な教育実践校として、令和6年度からの改編に向けて、令和5年度から段階的に取組みを進める。
- ・ **岬高校**は、エンパワメントスクールとして、社会で役立つ力を身に付け、生徒一人ひとりの自己実現を支援することに加え、通級指導教室を設置し、ソーシャルスキルトレーニングを授業に取り入れ、生徒のコミュニケーション力の醸成を図っている。また、少人数（10人程度のクラス編制）での指導を取り入れ、生徒個々の特性に応じた支援を行っている。これらの特色ある取組みを継承・発展させるため、「ともに学び、ともに育つ」教育について、より具体的に実践する多様な教育実践校として、令和6年度からの改編に向けて、令和5年度から段階的に取組みを進める。